

人間発達学部
YAGI Hideji
PROFILE
職名
人間発達学部 児童教育学科教授 人間発達学部長
学歴
京都大学大学院教育学研究 科博士課程（教育学専攻） 単位取得後退学（1974）
学位
教育学修士（京都大学、 1971）
所属学会
日本教育学会（理事）、日本 教師教育学会（理事）、教育 目標・評価学会（理事）、日 本教育法学会（理事）
専門分野
教育学

## 八木 英二

やぎ ひでじ

**研究課題1●教育における国際的合意の形成**

**研究課題2●子どもの遊びと学力形成**

**業 績**

**【著書】**

『障害児教育』／ミネルヴァ書房、1975年、共著。

『幼児教育論』／ミネルヴァ書房、1979年、共著。

『国際障害者年』／青木書店、1980年、単著。

『障害児の教育課程と指導法』／総合労働研究所、1981年、共著。

『障害児教育学入門』／総合労働研究所、1981年、共著。

『教育学』／青木書店、1984年、共著。

『未来を拓く人間と道徳』／昭和堂、1985年、共著。

『授業改善の原点を求めて』／日本標準、1986年、共著。

『教育の基礎理論』／文化書房博文社、1987年、共著。

『道徳教育の原理とその展開』／あゆみ出版、1987年、共著。

『子どもの遊びと学力の世界』／法政出版、1990年、単著。

『保育の原点をさぐる』／ぎんのすず幼教出版、1990年、共編著。

『教育実践学の基礎』／青木書店、1992年、共著。

『真実の表現をめざして』／ぎんのすず幼教出版、1992年、共著。

『生活科を創りかえる』／国土者、1992年、共著。

『21世紀をになう子どもたち』／法政出版、1992年、共著。

『子どもの発達と環境教育』／法政出版、1993年、共著。

『授業の発見・シリーズ①』／かもがわ出版、1994年、共著。

『ごっこ遊びから劇遊びへ』／ぎんのすず幼教出版、1994年、共著。

『授業の発見・シリーズ②』／かもがわ出版、1994年、共著。

『教師の多忙化とバーンアウト』／法政出版（京都）、1996年、共著。

『「人権教育」って何だ』／部落問題研究所、1997年、単著。

『いま人権教育を問う』／大月書店、1999年、共編著。

『ヒューマンサービスの教育』／三学出版、2000年、単著。

『人権教育の実践を問う』／大月書店、2002年、共編著。

『教師とは―教師の役割と専門性を深める』／学文社、2002年、共著。

『日本の教師教育改革』／学事出版、2008年、共著。

『新版：新教育学』／ミネルヴァ書房、2009年、共著。

『「評価の時代」を読み解く 下』／日本標準、2010年、共著。

**【学術論文】**

「教育における自由と基準性をめぐる国際的合意について」／『日本教育学会・教育学研究』第50巻第3号、1983年9月、単著。

「障害児の学校教育課程編成と遊び」／『障害者問題研究』第72号、1993年2月、単著。

「学齢期の生活からみた発達と教育」／『人間発達研究所紀要』第8号、1994年1月、単著。

「戦後初期の遊び指導論の推移と学校教育実践」／『教育目標・評価学会紀要』第4号、1994年10月、単著。

「授業（集団）における表現の組織化（個性化）」／『日本教育方法学会編「教育方法」』24巻、1995年10月、単著。

「雑誌「カリキュラム」にみられる遊び指導の教材開発と発達論」／『科研費総合研究A平成7年度研究成果報告』、1996年11月、単著。

「人間関係を測定する―バーンアウト研究からみた教師文化論」／『人間文化』第1号、滋賀県立大学人間文化学部、1996年10月、単著。

「人権教育に関する国際的合意の形成―「国連人権教育の十年」の成立と問題点―」／『教育目標・評価学会紀要』第7号、1997年10月、単著。

「A Study on Children with SEN in Osaka」／“Including the Excluded” edited by Ainscow.M.&Mittler,P., Inclusive Technology Ltd in association with The University of Manchester, 2001, ISBN:1-903618-13-4、2001年7月、単著。

「今日のカリキュラム開発と評価の課題」／『教員養成カリキュラム開発研究センター「研究年報」』Vol.2、東京学芸大学、2003年3月、単著。

「「評価・評定」をどう論じるか」／『子どものための教育評価と学校づくり』、日本教育学会・中部教育学会、2003年5月、単著。

「国際的な教育権保障からみた「接続選択」問題」／『学校階梯の連携と接続』、日本教育学会近畿地区研究会、2005年8月、単著。

「人権教育に関する教育施策と教育実践の総合的研究」／『平成15年度～平成17年度科学研究費補助金 基盤研究(C)(2)研究報告書』、2006年3月、共著。

「教師教育の質的向上策とその評価に関する国際比較研究」／『平成16年度～平成18年度科学研究費補助金 基盤研究(B)研究報告書』、2007年3月、共著。

「学力テストは何をもたらすか―その歴史とシステムの検討」／『人間と教育』55、旬報社、2007年9月、単著。

「教員免許・資格の原理的検討―実践的指導力と専門性基準をめぐる―」／『日本教師教育学会年報第16号』、2007年9月、共著。

「CEART勧告と教師専門職公証システム」／『人間と教育』第62号、旬報社、2009年3月、単著。

「教員評価基準をめぐる国際的合意形成にあらわれた二律背反」／教育目標・評価学会紀要、2010年12月、単著。

**【国際学会発表】**

・‘A Study on Teacher Burnout in the Osaka area’ the 9th World Congress of Comparative Societies University of Sydney July 1996 ABSTRACTS, 1996.

・‘A Comparative Area Study on Teacher Burnout of Japan’ The Oxford International Conference on Education and Development 1977 September11-15 New College ABSTRACTS, 1997.

・‘A Comparative Area Study on Occupational Behavior of Teachers’ The 2nd Annual Conference of the Comparative Education Society of Asia,7-9 October1998, International and Comparative Education Research Institute, Bei jing Normal University, The Abstracts’ Collection of Papers, 1998.

・‘A Study on Teachers’ Behavior Concerned with the Rediscovery of Poverty in Japan’ The Oxford International Conference on Education and Development,9-13 September,1999, at the University Oxford Examination Schools, Oxford, U.K., managed by CfBT Education Services, Additional abstracts, 1999.

・‘Disparity of Quantity and Quality of the Scholastic Knowledge of Students in Japan’ Programme and Abstract Book, The State of Education: Quantity, Quality and Outcomes,9-11 September, 2003, 2003.

**【科研費・外部資金】**

『教職の役割変化と教員評価に関する国際的合意形成の研究』／平成20年度～平成22年度科学研究費補助金（基盤研究C）研究課題番号20530744 その他